



1. 古 渡 橋 全 景。

古 渡 橋 を 語 る

茨 城 縣 土 木 課 設 計

霞ヶ浦に注ぐ河川の内、小野川と云へば南方に於ける雄なるものであるが、その邊一帶は平地のことであるし、地面は低いから、一朝霞ヶ浦が氾濫すれば、田も畑も野も町も一體の大海原と化してしまふのである。

その小野川の然も霞ヶ浦への出口と云へばもう霞ヶ浦の小波を受ける所謂水郷であつて春は翠の柳、秋はかれすゝきの穂先から筑波山を眺める風情は亦格別である。指定府縣道阿波木原線はこの湖岸を走つて、稲敷郡鳩崎村、古渡村入會のところで横過する。

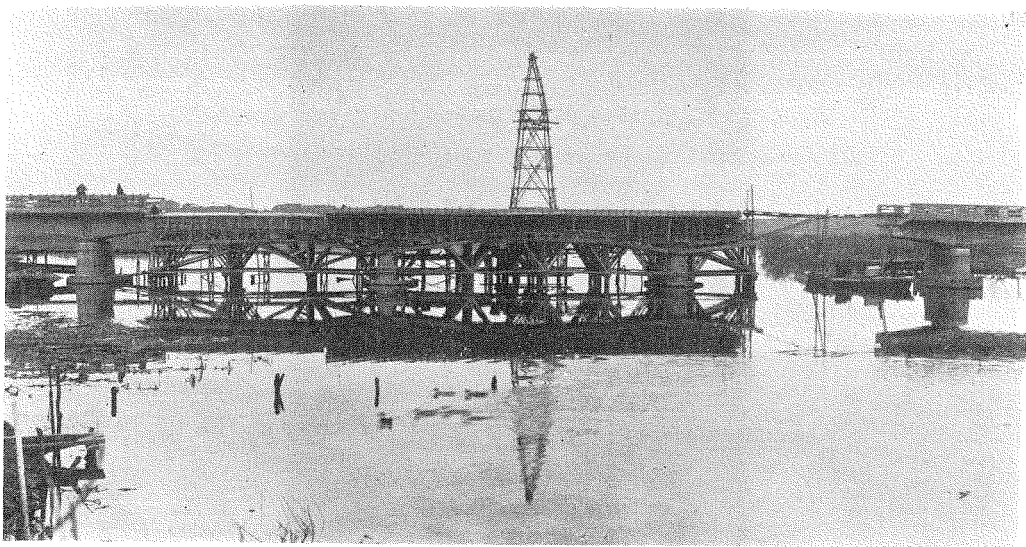
此處は昔から名高い船着き場であり渡船場であつた。昔は般賑を極めた相であるが、時代の變遷と共に水運が陸運に變り、凋落の一途を辿つて行つた。しかし歴史は亦繰り返して、陸運と軍事で再興の兆が現れてゐる。又渡し場としては「十三塚碑文」の語るやうに

根本六左衛門が、この橋畔で男らしく斫られてゐる。

舊橋は明治三十九年十二月に架設せられた木造桁橋で、橋長82.0米、有効巾員2.9米であつた。その後大正15年と、昭和5年とに殆んど架換に等しい程度の大修理をなし、今日に至つたのである。

新橋は昭和11、12年度の繼續事業として計畫され、國庫の補助を得て改築に着手したところ、日支事變勃發し鐵材、木材は高騰より統制へと移行した爲、其の購入には特に骨を折つたものであつたが、此程漸く完成するに至つたことは欣快に堪へない。

橋長120.0米、有効巾員5.5米、工費86,400圓、起工昭和11年12月、竣功昭和14年2月、この間に有名な茨城水害に見舞はれたことは申すまでもない。(池内技師)



2. 古波橋工事中。